19 日本国特許庁(JP)

⑩ 特 許 出 願 公 開

◎ 公開特許公報(A) 平3-251452

®Int. Cl. ⁵

識別記号

庁内整理番号

@公開 平成3年(1991)11月8日

B 32 B 33/00 3/30 5/18 7141-4F 6617-4F

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

会発明の名称 化粧材

②特 願 平2-50754

20出 願 平2(1990)3月1日

@発明者中河原满東京都台東区台東1丁目5番1号凸版印刷株式会社内

@発明者鳥海 臣吾 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

明 細 書

1. 発明の名称

化粧材

2. 特許請求の範囲

基材の上に発泡シートを設け、該発泡シートの 上にグラビア印刷層を設けて、該印刷層のインキの中の溶剤により前記発泡シート中の発泡セルを 破壊して凹部を形成することにより印刷層の終析 に対応した凹部を設けた化粧材。

3. 発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本発明は表面に絵柄に同調した凹部を設けることにより光沢差を与えて視覚的な立体感、ボリューム感を顕現する化粧材に関するものである。

<従来の技術>

従来よりアクリルエマルジョン系の発泡性樹脂の機械発泡により基材表面に凹凸を形成する技術はあるが、表面性(平滑性、風合等)及び物性面(表面強度等)などの問題で内装材として使用で

きるものは出来なかった。

また、発泡性シートの表面に、ケトン系溶剤を主成分とする塗料を用いて印刷等により模様を形成し、乾燥後、発泡させて模様以外の部分を膨出させて凹凸模様を形成したものとして特開昭56-72026号がある。

<発明が解決しようとする課題>

しかし、上記特別昭56-72026号のものは、発泡時に特定のアミンとアゾジカルボンアミドとケトン系験料の結合によりアゾジカルボンアミドの分解ガスを減少させて凹凸模様をつけるようになっているため、印刷後に発泡させなくてはならず、発泡残渣により模様の色のばらつきが生じるという問題がある。

<課題を解決するための手段>

本発明は上記課題を解決するために考えられたもので基材の上に発泡シートを設け、該発泡シートの上にグラビア印刷層を設けて、該印刷層のインキ中の溶剤により前記発泡シートの中の発泡セルを破壊して凹部を形成することにより印刷層の

絵柄に応じた凹部を設けた化粧材である。

<作用>

本発明は以上の構成になっており、発泡シート表面に印刷されたインキ中の溶剤により発泡セルが破壊され、模様以外の部分が膨出した状態で残り、模様に同調した凹凸が形成される。

< 実施例 >

なお、 基材 として上配 裏打紙 の他、 不 織 布 を 使 用 す る こ と も で き る。 ま た、 木 目 模 様 を 設 け た 上 に 全 面 に 架 橋 型 の 水溶性 ア ク リ ル 樹 脂 を 黛 布 す れ

- 3 -

ti)

- (2) インキの乾燥速度(遅い方が深く凹む)
- (3) インキの種類(ケトン系が深く凹む)
- (4)発泡シートの発泡倍率(大きい方が深く 凹む)
- (5)発泡シートの架構性(架橋が弱い方が深く凹む)
- (ロ)また、発泡シートのエマルジョンの配合 処方によって、以下のような機能を持たすことも でき
 - (1) 結構防止効果
- (2) 難燃性 (多量の無機材、例えば、水酸化 アルミニウムを配合)
 - (3) 耐光性
 - (4) 耐汚染性 (シリコンを配合)
 - (5) 吸音性 (発泡セルを完全連泡にする)
- (ハ) すでに発泡したシートに印刷層を設けて あるため、模様の色が安定しており、また、繊細 な凹み表現が可能で階調表現が優れている。

ば表面の耐性が向上する。

配合例

アクリル酸エステル	100部
充 塡 剤	120部
架橋剤	3 🛱
ブロッキング防止剤	4 部
指 水 剤	3 部
発泡剤	3 85
整泡剤	3 部
增 粘 剤	0.58
分散剤	1.58
ゲル剤	10部

<発明の効果>

本発明は以上の構成になっているので次のよう な優れた実用上の効果を有する。

- (イ) 模様を形成するインキ中の溶剤で発泡セルを破壊して凹凸が形成されているので、次の諸条件を変えることにより、穢々の精調表現が可能である。
 - (1) 印刷するインキの量(多い方が深く凹

- 4 -